

11月29日

温泉と冷水の温度差を利用して発電道の駅でLEDイルミネーション点灯



温泉と冷水の温度差で発電

町では11月29日、道の駅摩周温泉で、温度差発電装置によるイルミネーションの点灯を始めました。点灯式で徳永町長がスイッチを入れると、シラカバの木に巻きつけられた600球のLEDが点灯しました。道の駅では、63度の温泉水と12度の冷水を混合し、約50度に調整して足湯に利用。町ではこの温度差に着目し、7月から発電装置の開発に取り組んできました。この装置で、直流24ボルトで24ワットの電力を発電できるほか、24時間発電できることから蓄電も行います。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけてあげます。お気軽にご連絡ください。



企画財政課企画係 ☎482-2913 (課直通)

12月9日

自然素材を使った世界に一つだけのリース作りエコミュージアムセンターで自然ふれあい行事



川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「クリスマスリース作り」が12月9日、町内から親子連れなど11人が参加して行われました。アカエゾマツの枝葉を束ねて土台を作り、マツボックリやツルウメモドキ、クルミなどの自然素材で飾り付けをしました。マツ特有の香りに包まれながら、作業に没頭すること約3時間半。時折バランスを確かめながら、思い思いのデザインで完成させました。世界に一つだけのリースを手にした参加者からは「想像以上の出来に満足。華やかなクリスマスが迎えられます」といった声が聞かれました。

12月15日

飾り炭作りに挑戦だ！小・中学生向け体験活動「もりのパレット探検隊」



町内の小・中学生を対象とした、川湯エコミュージアムセンター主催の自然体験活動「もりのパレット探検隊」第5回が12月15日、小学生23人が参加して行われ、火おこしと飾り炭作りに挑戦しました。今回は、マツボックリやクルミなどをアルミホイルで包んで缶に詰め、30分近く蒸し焼きにして炭を作るというもの。たき付けとなる小枝を拾い集め、まきを組み、マッチをすっての着火では初めてマッチを手にする子もいて、みんなで奮闘しました。子どもたちにとっては、炭作りよりも火をおこすことの大変さを感じる体験になったようでした。

12月3日

万が一のときに皆さんの生命と財産を守るため 弟子屈消防署に新しい水槽車を配備



弟子屈消防署では、新しい小型動力ポンプ付き水槽車1台を配備し、12月3日に運用開始式を行いました。同署に水槽車が配備されるのは32年ぶりのこと。総積水量は10トンで、消火栓がない農村地域などでも消火活動ができます。また、泡消火剤による消火活動ができ、集合住宅において上層階からの放水による階下住居の家財損害を軽減することができます。式で徳永町長は「火災がないのが一番だが、有事の際の速やかな消火活動を期待する」とあいさつをしました。

12月14日

かるたを楽しみながら思いやりの心を学ぶ 弟子屈小学校で人権教室を開催



釧路人権擁護委員協議会主催の人権教室が12月14日、弟子屈小学校(阿部典子校長)で行われました。道徳教育に力を入れている同校が同協議会に依頼したもので、今年で2回目。講師に東北海道子どもの人権専門委員の石川征支朗さん、弟子屈町人権擁護委員の朝日英明さん、小澤修子さん、小泉裕さんを迎え、4年生を対象に開催されました。教室では、同協議会が作製した人権かるたを教材として使用。児童は、取った札をもとに思いやりの心や優しさについて考えました。

手作りの催しに園児を招待

合同生活科「ましゅうランドへようこそ」



工夫を凝らしたゲームに園児も大喜び

児童はグループに分かれて、ボウリングや宝探しなどのゲームコーナーや、アクセサリーのお店などを開店。招待された町内の保育園・幼稚園児がお客さんとなり、各お店を回りました。ゲームの内容は児童が自分で考え、景品なども含めて手作りで準備したほか、当日は店番も体験。園児を相手に接客を行いました。また、他校児童との交流も深めました。



マツボックリを点数の書かれた的に投げ入れるゲーム(上)と魚釣りゲーム(下)



町内6つの小学校の1、2年生が集まり、お店屋さんごっこを楽しむ「ましゅうランドへようこそ」が11月29日、弟子屈小学校で行われました。生活科の授業の一環で、コミュニケーションの大切さを学ぶことを目的に、毎年行われているものです。

町の話題



町の話題

弟中2年生と3年生が大賞に

第11回全道中学校かべ新聞コンクール



大賞に輝いた3年B組の「夢走」(右)と2年A組の「満蕾」(左)



「満蕾」で大賞を受賞した2年A組の皆さん

3年B組代表の富田哲君は「自分の気持ちを文章にするのが難しかった」、2年A組代表の坂東もみじさんは「グループの意見をまとめるのに苦労した」と話し、吉田校長は「取材に快く協力してくれた町の方に感謝している」と話していました。

第11回全道中学校かべ新聞コンクール(北海道新聞社など主催)で、弟子屈中学校(吉田亨校長)の3年B組と2年A組が大賞を受賞しました。コンクールには、全道107校から291作品が出品され、大賞を含め24点が入選しました。弟子屈中学校3年B組と2年A組は、11月に行われた第26回中学校かべ新聞コンクール道東大会で最優秀賞に輝き、全道コンクールへ進出。3年生の部、2年生の部でそれぞれ大賞という快挙を成し遂げました。道東大会では1年A組も優秀賞に輝いています。かべ新聞は、文化祭の取り組みの一環として作成。観光など地元に向けた企画・取材力とレイアウトや見出しなどのセンスに高い評価が集まりました。

第11回全道中学校かべ新聞コンクール(北海道新聞社など主催)で、弟子屈中学校(吉田亨校長)の3年B組と2年A組が大賞を受賞しました。

コンクールには、全道107校から291作品が出品され、大賞を含め24点が入選しました。弟子屈中学校3年B組と2年A組は、11月に行われた第26回中学校かべ新聞コンクール道東大会で最優秀賞に輝き、全道コンクールへ進出。3年生の部、2年生の部でそれぞれ大賞という快挙を成し遂げました。道東大会では1年A組も優秀賞に輝いています。かべ新聞は、文化祭の取り組みの一環として作成。観光など地元に向けた企画・取材力とレイアウトや見出しなどのセンスに高い評価が集まりました。



「夢走」で大賞を受賞した3年B組の皆さん